

イベント事業費補助金
の総括について
(平成 24 年度～平成 26 年度)

平成 26 年 12 月

鳥取市行財政改革推進市民委員会

目 次

1. 総括評価の対象事業と外部評価結果	1
2. イベント事業の問題点	2
3. 総括について	3
4. おわりに	4
5. 対象事務事業別評価	5～20
6. 鳥取市行財政改革推進市民委員会委員名簿	21

鳥取市行財政改革推進市民委員会では、イベント事業費補助金の外部評価を行うため、ヒアリングによる外部評価を平成24年度から3年間にわたり行ってまいりました。その評価結果の総括をこのたび行いました。

1 総括評価の対象事業と外部評価結果

「しゃんしゃん祭支援事業」及び総合支所が所管する「まつり」「体育大会」「展示会」「物産展」「発表会」等のイベントに対する補助事業（以下「イベント事業費補助金」といいます。）を対象としました。なお、個々の事業の外部評価結果(方向性)は次のとおりです。評価結果の詳細や意見・提案等については5頁から20頁までに個別に掲載しています。

評価年度	事務事業名	外部評価結果 (方向性)	担当課
平成24年度	あゆ祭補助金	改善継続	河原町産業建設課
	青谷ようこそまつり事業補助金	改善継続	青谷町地域振興課
平成25年度	睦逢大堤うぐい突き補助金	改善継続	気高町地域振興課
	貝がら節まつり補助金	縮小	気高町地域振興課
	ふるさと産業まつり（気多の市）補助金	縮小	気高町産業建設課
	しゃんしゃん祭支援事業	改善継続	観光コンベンション推進課
	用瀬流しびな行事	現状維持	用瀬町産業建設課
	生涯学習推進事業費	改善継続	教育委員会 用瀬町分室
	流しびなマラニック大会補助金	改善継続	教育委員会 用瀬町分室
	町民音楽祭開催	改善継続	鹿野町地域振興課
平成26年度	マstromフェスタ補助金	改善継続	国府町産業建設課
	ウォークラリー大会実行委員会補助金	改善継続	教育委員会国府町分室
	各種団体負担金（むらづくり運動事業費、むらづくり大会補助金）	現状維持	教育委員会福部町分室
	らっきょう生産振興大会助成事業	現状維持	福部町産業建設課
	ふるさとの味祭り事業費補助金（佐治町）	改善継続	佐治町地域振興課
	公民館祭開催費（佐治町）	現状維持 改善継続	佐治町地域振興課

2 イベント事業の問題点

イベント事業費補助金の評価内容・各委員の評価コメントから問題点を抽出すると次の通りです。

①事業目的が不明確で、事業実態が把握できていない

イベント事業は地域の活性化を図る上では欠かせないものです。しかし、参加者の人数・関心・動向が十分に把握できていないものや、開始当初に「観光振興」や「農業振興」施策として位置付けられ実施されてきたイベントの、役割が変化し、地域振興施策に特化してしまっている事例などが見受けられました。事業目的と役割が不一致では効果的に行うことはできません。

②市職員の関与度が高く、住民主体のイベントになっていない

地域活性化のためのイベント事業は、地域住民が自主的に運営し、行政が必要最小限の支援をおこなう「協働事業」として実施していくことが本来の姿です。しかし、ヒアリングの結果、市職員の関与度が高く、運営の実質的な主体が市となっているケースが見受けられました。

③費用対効果に照らして過大と思われるものや過度の支出が散見される

報償費等でボランティアやイベント参加者に対する過度の支出が見受けられました。また、費用対効果を考慮すると過大と思われる事業費の支出が一部で見受けられました。

④自主財源の確保よりも、市の補助金をあてにしたイベント運営となっている

運営を行うにあたり、自主財源の確保よりも、市の補助金をあてにした財政運営がなされていると見受けられる事業がありました。これでは、一部イベント内容の廃止等を行わない限り、新たな取り組みを行うことはできません。

⑤貴重な行政資源（財源・職員）が有効に活用されていない

類似イベントを近隣の地域や同一時期で実施していたケースが見受けられました。加えて今後は支所地域の過疎化の進行に伴い、既存の体制のままでは実施困難となるイベントが生じる事態も想定されます。

⑥他地域との公平性に課題がある

地域活性化イベントとして評価する声がある一方で、他地域と比較すると公平性に課題があり、地域間の格差是正を求める評価もありました。

3 総括について

問題点をふまえて、本委員会で外部評価を総括した結果、次の点について見直しを行うことを求めます。

①地域の実態を把握し、事業目的の見直し

参加者の人数・関心・動向等の事業実態、地域のニーズ等を把握し、目的にあった効果が得られるよう再度検証することが大切です。その結果に合わせ、目的・手段を必要に応じて見直し、効果的な事業の実施を行うよう努めてください。

具体的には「観光イベント」は地域の枠にとらわれず、関西圏等県外の方の取り込みを視野に入れた見直しを、「地域振興イベント」は地域住民を対象に絞り地域の絆を深める等効果的な取組となるような見直しを行っていただくことを望みます。

②実施体制の見直し

活力あるイベントにするためには、まず行政に頼るのではなく、住民主体のイベントであるという認識を地元と行政で共有することが大切です。そのためには市職員の関与を極力少なくし、住民ボランティア、とくに若者や地元の商工会等の民間活力の導入に努めるなど工夫が必要です。最終的には地域で自主運営していくことを視野に入れた次世代を見据えた実施団体の育成・指導に取り組んでいただくことを望みます。

③事業経費の見直し

ボランティアやイベント参加者に対する報償費等の過度の支出を見直す必要があります。費用対効果を考慮しながら改めて目的を達成するための事業内容、工程、経費として適当かどうか、見直しに努めてください。

なお、見直しにあたっては実施主体の住民に改善工夫の必要性を十分説明し、市と市民が一体となって改善に取り組んでいただくことを望みます。

④財政的に自立した運営への見直し

寄付金、協賛金を募ったりするとともに、参加料の見直し、販売イベント出店料を新設したりするなど、自主財源の確保に努めるとともに、市補助金の負担割合の見直しを図り、補助金に頼らない財政的に自立した運営ができるよう改善に努めてください。これにより、市の補助金をあてにせず、新規の取り組みを行うことが可能となり、イベントの活性化、ひいては地域の活性化につながることを考えられます。

⑤他事業・他地域・他組織との連携・統合による効果的な事業実施の検討

イベントとして継続して実施・拡充していくためには他事業・他地域・他組織と連携し実施することも必要です。

具体的には、他地域との調整による隔年、輪番による開催、同時期や類似イベント

の統合、本庁と支所、近隣支所との連携・支援による実施体制の構築等で、貴重な行政資源（財源・職員）を集約し、イベントの充実を図るように努めてください。

また、実行委員会の委員への若者の起用、大学のサークル・ボランティア団体・近隣支所の若者等と連携した開催方式の導入などを積極的に進め、活力あるイベント運営に取り組んでいただくことを望みます。

⑥地域間の不均衡是正を視点に入れた事業見直しの検討

本市は、平成26年11月に合併10年を迎えました。これを契機に、地域間の格差是正の視点を新たに取り入れ、市域全体の均衡ある発展を念頭に中長期的な視点による事業の見直しを行うことを望みます。

4 おわりに

今後の事業実施にあたり、このたびの総括評価を十分参考にされ、イベントのあり方等の改善、改革に活用し、活力のある魅力的なイベントを開催していただくよう期待します。

また、総括評価の対象となっていないイベント事業（直営事業、委託事業も含む）についても、この報告書を十分参考にされ、今後の行財政改革に取り組まれることを望みます。

1 対象事務事業名

事務事業名	あゆ祭補助金
-------	--------

2 内部評価結果(担当部署の評価)

判定理由	方向性
日程を変更したことにもより、他のイベントとの調整が図られ、あゆ祭への来場者が増加。今後も、実行委員会が核となり、祭の継続実施に努める。	現状維持

3 外部評価結果(市民委員会の評価)

判定理由	方向性
今回、旧町村のイベント補助のうち2件のみを対象とし外部評価を行ったが、今後、すべてのイベント補助のヒアリングを実施して評価後に客観的に旧町村のイベント全体を評価することとする。 本事業については、「改善継続」としたものの、地域の持続的発展のためのイベントとするためには、地域の特色を盛り込んだ観光振興のシンボルとして検討をしていく必要がある。さらに、財政的には経費の縮減が求められており、イベントの目的を明確にし、地域活力の活用や創意工夫する必要がある。	改善継続

4 各委員の評価結果の集計

評価の視点の集計								方向性の集計結果			
公益性		公平性		有効性		内部評価の妥当性			拡大	現状維持	改善継続
高い	45%	高い	27%	有効である	45%	妥当である	45%		0%	36%	55%
低い	9%	低い	45%	有効でない	18%	妥当とはいえない	36%		9%	0%	0%
判定困難	45%	判定困難	27%	判定困難	36%	判定困難	18%		0%	0%	0%
【集計結果が示す割合について】 集計結果が示す割合(%)は、評価した11名の評価結果を示しています。 9%⇒1人、18%⇒2人、27%⇒3人、36%⇒4人、45%⇒5人、55%⇒6人、64%⇒7人、73%⇒8人、82%⇒9人、91%⇒10人											

5 各委員の評価コメント

<p>(改善継続に関連する意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の祭りの維持ではなく、市として「鳥取市(の中の河原)」のあゆの魅力を対外的にアピールし観光客の誘致を図るといふ、補助金交付要綱にある通りの目的を追求すべき。観光政策としての評価が必要であり、入込客数(総数及び内訳)の把握などをきちんとする必要がある。 ・費用の10分の10を補助する事の改善を求めます。(内容を検討してほしい) ・河原町のイベントではなく、鳥取市としてこのイベントを活かしていくかを検討する必要がある。旧町村の事業を単に継続していくだけでは無駄。 ・しっかり地域に定着していると思う。イベント内容も少し縮小(行事を減らす)した方がよいと思う。1日のため、しいていえば半日のため、これだけの補助を使う意味はない。 ・一地域の祭りに約500万円の補助をするのは再検討すべきと考える。経費支出の内容を十分精査して極力抑制すべきと考える。 <p>(現状維持に関連する意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回16件ある旧町村のイベント補助のうち2件のみを対象とした。これは多くのイベント補助の実態を解明した後に評価するという方針の一つであり、すべてのヒアリングが終了した後客観的に評価したい。したがって、今回はヒアリングのみで評価は差し控え、現状維持とした。 ・現状維持であるものの、財政的な負担を減らしていくことが求められる。地域の持続に資するためのイベントにするためには、観光振興や産業振興をより強化していくことが必要では。 ・旧河原町内外の県内外の集客データが青谷ようこそ祭りのようにあれば良かった。 <p>(縮小に関連する意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「アユの町」のPRや経済波及効果を期待するというより地域イベントとして捉え、地域住民の関わり、企業の賛同等を総合的に評価すると当該事業は成功事例と言える。ただ他地域の同種のイベントと比較すると、補助金の支出額が妥当かどうか疑問。同様事例に対し行政の関与をどうしていくのか統一的な検討が必要。

1 対象事務事業名

事務事業名	青谷ようこそまつり事業補助金
-------	----------------

2 内部評価結果(担当部署の評価)

判定理由	方向性
この事業は、伝統工芸品「因州和紙」をはじめとする地域資源や魅力を内外に発信するとともに、まちの活性化を図るという目的が達成されているという点で評価でき、事業をとおして地域振興が図られているといえる。以前は行政主導の色が濃い面も見られたが、各種住民団体が主導となる事業へと移行しつつある段階にあり、今後、住民主体の「まつり」として地域の活性化につながることを期待される。	改善継続

3 外部評価結果(市民委員会の評価)

判定理由	方向性
今回、旧町村のイベント補助のうち2件のみを対象とし外部評価を行ったが、今後、すべてのイベント補助のヒアリングを実施して評価後に客観的に旧町村のイベント全体を評価することとする。 本事業については、「改善継続」としたものの、産業振興や地域振興を図るイベントとするためには、地域の特色を盛り込んだ地域主体のまつりとなるよう検討をしていく必要がある。さらに、財政的には経費の縮減が求められており、イベントの目的を明確にし、地域活力の活用や創意工夫する必要がある。	改善継続

4 各委員の評価結果の集計

評価の視点の集計								方向性の集計結果		
公益性		公平性		有効性		内部評価の妥当性				
高い	27%	高い	9%	有効である	27%	妥当である	45%		拡充	0%
低い	27%	低い	55%	有効でない	18%	妥当とはいえない	36%		現状維持	27%
判定困難	45%	判定困難	36%	判定困難	55%	判定困難	18%		改善継続	55%
【集計結果が示す割合について】 集計結果が示す割合(%)は、評価した11名の評価結果を示しています。 9%⇒1人、18%⇒2人、27%⇒3人、36%⇒4人、45%⇒5人、55%⇒6人、64%⇒7人、73%⇒8人、82%⇒9人、91%⇒10人									縮小	9%
									休止・廃止・終了	9%

5 各委員の評価コメント

<p>(改善継続に関連する意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・因州和紙のPRイベントとしては一定の成果を上げていると言えるが補助金ありきの事業内容となっている。産業育成と地域イベントとの調和をどのように図っていくのか整理が必要。 ・これまでの実績について精査し、観光目的の事業・イベントとして、生まれ変わらせるべき。住民主体で行う祭りであっても、「鳥取市(の中の青谷)」の伝統工芸品などの魅力を、市として発信するためのものとすべき。その上で、観光政策としての評価が必要であり、入込客数(総数及び内訳)の把握などをきちんとする必要がある。新市域の同種イベントについては、できるだけ早く一斉に、必要な見直しを行うべき。 ・費用の10分の10を補助する事の改善を求めます。(内容を検討してほしい) ・1ヶ所のできる事業にできないのか。目的がはっきりしない。 ・一地域の祭りに約400万円の補助をするのは再検討すべきと考える。経費支出の内容を十分精査して極力抑制すべきと考える。又、協賛金、寄付金等を募るなど自己努力をすべきと考える。 <p>(現状維持に関連する意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回16件ある旧町村のイベント補助のうち2件のみを対象とした。これは多くのイベント補助の実態を解明した後に評価するという方針の一つであり、すべてのヒアリングが終了した後客観的に評価したい。したがって、今回はヒアリングのみで評価は差し控え、現状維持とした。 ・現状維持であるものの、財政的な負担を減らしていくことが求められる。地域の持続に資するためのイベントにするためには、観光振興や産業振興をより強化していくことが必要では。 <p>(縮小に関連する意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業スポンサー、売上目標を立てるなど工夫をしてパーセンテージの比率を変えていく必要がある。現時点では青谷町内で消化しているような現状になっている。 <p>(廃止・終了に関連する意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥取市としてこのイベントを活かしていくかを検討する必要がある。旧町村の事業を単に継続していくだけでは無駄。

1 対象事務事業名

事務事業名	睦逢大堤うぐい突き補助金(気高町地域振興課)
-------	------------------------

2 内部評価結果(担当部署の評価)

判定理由	方向性
400年以上前に鹿野城主亀井公が東南アジアから睦逢に伝えた漁法で、伝統漁法として大切に後世に伝承するとともに、地域住民の交流を促進し広く市民の関心を喚起し地域の賑わいを創出した。	現状維持

3 外部評価結果(市民委員会の評価)

判定理由	方向性
<p>昨年に引き続き、旧町村のイベント補助のうち7件を対象とし、外部評価を行ったが、今後、すべてのイベント補助のヒアリングを実施して評価後に客観的に旧町村のイベント全体を評価することとする。</p> <p>本事業については、「改善継続」としたものの、事業の目的やその目的を達成するための手段として適当なものか見直しを行い、事業のあり方を検討するにあたっては、他の事業と統合して実施するなど効果的な実施方法の検討が求められる。</p>	改善継続

4 各委員の評価結果の集計

評価の視点の集計										評価結果の集計		
必要性		有効性		効率性		公平性		内部評価の妥当性				
高い	25%	有効である	25%	効率的である	0%	公平である	0%	妥当である	0%		拡充	0%
低い	25%	有効でない	50%	効率的ではない	75%	公平でない	25%	妥当とはいえない	75%		現状維持	0%
判定困難	50%	判定困難	25%	判定困難	25%	判定困難	75%	判定困難	25%		改善継続	100%
<p>【集計結果が示す割合について】</p> <p>集計結果が示す割合(%)は、評価した4名の評価結果を示しています。 25%⇒1人、50%⇒2人、75%⇒3人、100%⇒4人</p>											縮小	0%
											休止・廃止・終了	0%

5 各委員の評価コメント

<p>【改善継続に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この事業(補助金)単独の評価は困難。 ・継承と地域イベントという2つのねらいを明確にして手段を講ずるべき。後者についての補助金支出は慎重であるべき。 ・本件の放流事業と他の補助金を活用して行う秋のうぐい突き事業は一体として考える必要がある。 ・伝統漁法の保存、伝承という点で見れば、事業が拡散し、かつ獲得予算消化の面も否めず、地域行事とは言えなくなっている。 ・春、秋の事業を統合し本来の趣旨に立ち返る必要あり。 ・同様な事業があるので、事業を見直し、共同で行っていく方法を取るべきだ。継承する人がいないのであれば、事業休止もやむを得ない。 ・一度休止し、事業の目的やその目的を達成するための手段として適当なものか考えてみていただきたい。 ・担当者自身、イベントが鳥取に効果的な働きをしているという思いがうすかった。これはやり方を工夫して町村イベントとしてのくくりで実施して行く方向性を考えていくことが賢明だと思う。

1 対象事務事業名

事務事業名	貝がら節まつり補助金
-------	------------

2 内部評価結果(担当部署の評価)

判定理由	方向性
浜村温泉の観光不振の中、地域住民自ら貝がら節まつりを自分たちのイベントとして盛り上げていくという機運を醸成して行く必要がある。	改善継続

3 外部評価結果(市民委員会の評価)

判定理由	方向性
昨年に引き続き、旧町村のイベント補助のうち7件を対象とし、外部評価を行ったが、今後、すべてのイベント補助のヒアリングを実施して評価後に客観的に旧町村のイベント全体を評価することとする。本事業については、地域住民の賑わいづくりイベントの要素が大きいと思われるため、他地域との調整や地域住民と連携するなど効率的・効果的な実施に向け抜本的な改革を求める。	縮小

4 各委員の評価結果の集計

評価の視点の集計										評価結果の集計		
必要性		有効性		効率性		公平性		内部評価の妥当性				
高い	0%	有効である	0%	効率的である	0%	公平である	25%	妥当である	50%		拡充	0%
低い	100%	有効でない	75%	効率的ではない	75%	公平でない	50%	妥当とはいえない	50%		現状維持	0%
判定困難	0%	判定困難	25%	判定困難	25%	判定困難	25%	判定困難	0%		改善継続	25%
【集計結果が示す割合について】 集計結果が示す割合(%)は、評価した4名の評価結果を示しています。 25%⇒1人、50%⇒2人、75%⇒3人、100%⇒4人										縮小	50%	
										休止等	25%	
										廃止・終了	0%	

5 各委員の評価コメント

<p>【改善継続に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光客は望めなくて、現在は町民のにぎわいのためのイベントである。補助金を使って花火をして、お金が消えてしまう事に不公平感がある。貝がら節の事だけなら、保存会の方法でのイベントをしたらよい。 <p>【縮小に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合併前の旧町単位でのイベントを一切否定するものではないが、毎年4百万円も補助して続ける必要があるのか疑問。旧市内地域との不公平感も否めない。例えば、他の旧町村との調整により、隔年、輪番による開催など、効率的・効果的なイベントとなるよう全体的な再検討が必要と考える。 ・この事業のように、観光客向けの要素が小さく地域住民のためのイベントとなっているものについては、近い将来に全市で支援目的を明確にし、体制を見直すべき。例えば個々のイベントを統合したり、隔年開催にしたりするなど、全体としては縮小するのが自然ではないか。 ・改善策・見直し策を検討するためにも、参加者の把握(総数だけでなく、様々な内訳)をすべき。観客数の有効数字が1ケタでは数えているとはいえない。 ・外部から観光客を呼ぶイベントというより地域行事としての位置づけが妥当だが、住民の主体性が欠けており抜本的な改革が必要。 ・踊り出場者や見学者に多額の報償金が支出され、他地域のイベントと比べ均衡を失する。 <p>【休止・廃止・終了に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域イベントのくくりで実施していくことを検討していくべき。

1 対象事務事業名

事務事業名	ふるさと産業まつり(気多の市)補助金
-------	--------------------

2 内部評価結果(担当部署の評価)

判定理由	方向性
地域住民のニーズに応えた運営を行い、参加者の拡大を図る。県内外へ広く気多地域をPRしていくことも取組んでいく。	現状維持

3 外部評価結果(市民委員会の評価)

判定理由	方向性
昨年に引き続き、旧町村のイベント補助のうち7件を対象とし、外部評価を行ったが、今後、すべてのイベント補助のヒアリングを実施して評価後に客観的に旧町村のイベント全体を評価することとする。 本事業については、他の事業と統合して開催するなど効果的・効率的な実施方法の検討が求められる。	縮小

4 各委員の評価結果の集計

評価の視点の集計										評価結果の集計											
必要性		有効性		効率性		公平性		内部評価の妥当性			<table border="1"> <tr><td>拡充</td><td>0%</td></tr> <tr><td>現状維持</td><td>0%</td></tr> <tr><td>改善継続</td><td>0%</td></tr> <tr><td>縮小</td><td>75%</td></tr> <tr><td>休止・廃止・終了</td><td>25%</td></tr> </table>	拡充	0%	現状維持	0%	改善継続	0%	縮小	75%	休止・廃止・終了	25%
拡充	0%																				
現状維持	0%																				
改善継続	0%																				
縮小	75%																				
休止・廃止・終了	25%																				
高い	25%	有効である	0%	効率的である	0%	公平である	25%	妥当である	25%												
低い	75%	有効でない	75%	効率的ではない	75%	公平でない	75%	妥当とはいえない	75%												
判定困難	0%	判定困難	25%	判定困難	25%	判定困難	0%	判定困難	0%												
【集計結果が示す割合について】 集計結果が示す割合(%)は、評価した4名の評価結果を示しています。 25%⇒1人、50%⇒2人、75%⇒3人、100%⇒4人																					

5 各委員の評価コメント

<p>【縮小に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内の事業をまとめて行ってはどうか。事業ごとにかかっていた費用も縮小できるし効率がよくなる。 ・この事業のように、観光客向けの要素が小さく地域住民・商店のためのイベントとなっているものについては、近い将来に全市で支援目的を明確にし、体制を見直すべき。例えば個々のイベントを統合したり、隔年開催にしたりするなど、全体としては縮小するのが自然ではないか。 ・改善策・見直し策を検討するためにも、参加者の把握(総数だけでなく、様々な内訳)をすべき。観客数の有効数字が1ケタでは数えているとはいえない。 ・「産業まつり」としての意義と要素は既に失っており、実態は地域イベント。同日に行われている「気多町文化祭」等と一体化し開催すべき。 <p>【休止・廃止・終了に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域イベントのくくりで実施していくことを検討していくべき。 <p>【その他意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度他のイベントと開催時期を調整したとのことであるが、補助する事業も再編統合するなど効果的、効率的な実施方法を検討いただきたい。

1 対象事務事業名

事務事業名	しゃんしゃん祭支援事業
-------	-------------

2 内部評価結果(担当部署の評価)

判定理由	方向性
今後日本の祭として広く県内外にアピールしていくためにも、しゃんしゃん祭り振興会に対する継続的な支援が必要である。	改善継続

3 外部評価結果(市民委員会の評価)

判定理由	方向性
全国レベルの観光イベントへの引上げを目標とするためには、観客の内訳やニーズの把握に努めるとともに、エーгент等への具体的な働きかけについて検討する必要がある。また、厳しい財政状況が続くなか、参加団体負担金、協賛金の拡充を図り、補助金を減らす仕組みづくりをしていく必要がある。	改善継続

4 各委員の評価結果の集計

評価の視点の集計										評価結果の集計						
必要性		有効性		効率性		公平性		内部評価の妥当性			拡大	0%				
高い	100%	有効である	75%	効率的である	25%	公平である	100%	妥当である	75%				現状維持	25%		
低い	0%	有効でない	0%	効率的ではない	50%	公平でない	0%	妥当とはいえない	0%						改善継続	75%
判定困難	0%	判定困難	25%	判定困難	25%	判定困難	0%	判定困難	25%							
【集計結果が示す割合について】 集計結果が示す割合(%)は、評価した4名の評価結果を示しています。 25%⇒1人、50%⇒2人、75%⇒3人、100%⇒4人										休止・廃止・終了	0%					

5 各委員の評価コメント

<p>【改善継続に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業からの協賛金を集め、市の補助金を減らしていく事を今後検討していくのがよい。 ・観光素材として活用や参加者からの参加料のあり方(どこまで市が負担すべきか)など改善を加えていただきたい。 ・充実を図るなら、観客の内訳(市民か入込客か、など)の把握と観客の声の収集を提案したい。それにより、事業の有効性や効率性を明確に評価できる。 ・行政は主導的な役割ではなく、仕掛けや支援に徹すべき。 ・しゃんしゃん祭振興会事務局は観光コンベンション協会内にあるものの連携が不十分であり、責任体制が不明確。 ・運営委託料(H24 12百万円)の支出が不透明。また委託内容の検討がきちんとなされているのか疑問である。 ・全国レベルの観光イベントにという意気込みに反し、エーгент等への具体的な働きかけはほとんどなく、宣伝費は内向きなものとなり、改善が必要。 ・市の負担金軽減のため参加団体負担金、協賛金拡充へのさらなる動きも必要。 <p>【現状維持に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予算継続をしつつも減少出来る仕組みづくりと模索・周囲の理解・周知をしていくべきだと考える。
--

1 対象事務事業名

事務事業名	用瀬流しびな行事(用瀬町産業建設課)
-------	--------------------

2 内部評価結果(担当部署の評価)

判定理由	方向性
流しびな行事は、昭和60年に「もちがせの雛送り」として鳥取県無形民俗文化財に指定された、後世に伝承すべき鳥取県を代表する貴重な観光行事であり、春の風物詩として全国各地から多数の観光客が訪れる。地元の方々が企画から当日の運営まで実施していて、用瀬地域の一体化、活性化にも寄与しており、今後とも継続すべき事業である。	現状維持

3 外部評価結果(市民委員会の評価)

判定理由	方向性
昨年に引き続き、旧町村のイベント補助のうち7件を対象とし、外部評価を行ったが、今後、すべてのイベント補助のヒアリングを実施して評価後に客観的に旧町村のイベント全体を評価することとする。さらに、財政的に自立できるよう地域活力を活用するとともに、創意工夫する必要がある。	現状維持

4 各委員の評価結果の集計

評価の視点の集計										評価結果の集計				
必要性		有効性		効率性		公平性		内部評価の妥当性			拡充	20%		
高い	100%	有効である	60%	効率的である	40%	公平である	40%	妥当である	40%				現状維持	60%
低い	0%	有効でない	20%	効率的ではない	60%	公平でない	0%	妥当とはいえない	60%				改善継続	20%
判定困難	0%	判定困難	20%	判定困難	0%	判定困難	60%	判定困難	0%				縮小	0%
【集計結果が示す割合について】 集計結果が示す割合(%)は、評価した5名の評価結果を示しています。 20%⇒1人、40%⇒2人、60%⇒3人、80%⇒4人、100%⇒5人										休止・廃止・終了	0%			

5 各委員の評価コメント

<p>【拡充に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用瀬のブランド確立に向けて、前向きに取り組んでいただきたいと思う。 <p>【現状維持に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用瀬町のみでなく全市的なバックアップ体制の確立を望む。 ・財源の確保に関する努力はより一層充実していただきたい。 ・会議費として反省会費用が計上してあるが、他費目からも残金が使われていると思う。備考を見るとあまりにも概算すぎる。
--

1 対象事務事業名

事務事業名	生涯学習推進事業費(用瀬町教育委員会分室)
-------	-----------------------

2 内部評価結果(担当部署の評価)

判定理由	方向性
住民の生涯学習の推進を図るための事業として大変重要なものであり、継続した取組が必要である。今後はふれあいまつりの時に限らず、公共施設への展示などで成果を発表する機会を増やし、学習意欲を高める取組等も考えていきたい。	拡充

3 外部評価結果(市民委員会の評価)

判定理由	方向性
昨年に引き続き、旧町村のイベント補助のうち7件を対象とし、外部評価を行ったが、今後、すべてのイベント補助のヒアリングを実施して評価後に客観的に旧町村のイベント全体を評価することとする。 さらに、財政的に自立できるよう地域活力を活用するとともに、創意工夫する必要がある。	改善継続

4 各委員の評価結果の集計

評価の視点の集計										評価結果の集計						
必要性		有効性		効率性		公平性		内部評価の妥当性			拡充	0%				
高い	60%	有効である	60%	効率的である	40%	公平である	40%	妥当である	0%				現状維持	0%		
低い	20%	有効でない	20%	効率的ではない	40%	公平でない	60%	妥当とはいえない	80%						改善継続	80%
判定困難	20%	判定困難	20%	判定困難	20%	判定困難	0%	判定困難	20%							
【集計結果が示す割合について】 集計結果が示す割合(%)は、評価した5名の評価結果を示しています。 20%⇒1人、40%⇒2人、60%⇒3人、80%⇒4人、100%⇒5人										休止・廃止・終了	20%					

5 各委員の評価コメント

<p>【改善継続に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合併前の旧市内のように、公民館活動(?)としての取り組みに統合する必要あり。 ・地域コミュニティを担う事業として多くの住民の方で力を合わせて発展させて欲しいと思います。 ・市内の公民館の2館分ぐらいの町民で、全員参加かもしれないが、大がかりすぎるのではないかと。2回開催を1回に縮小できないものか(イベント、展示等、全部の催しを見てまわることも困難だと思う) ・これからの地域のあり方、地域づくりの一つの方策となる可能性がある。用瀬町の特色ある地域づくりとして継続してほしい。一方でそのノウハウを鳥取市全域に伝えるなどの鳥取市全域への貢献の点で検討してほしい。 <p>【休止・廃止・終了に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公平性の観点で問題あり。
--

1 対象事務事業名

事務事業名	流しびなマラニック大会補助金
-------	----------------

2 内部評価結果(担当部署の評価)

判定理由	方向性
健康志向が高まる中、自分の健康に合わせランニングまたはウォークの選択が出来、気軽に参加しやすい大会として好評を得ている。本市の一大イベントとして定着しており、継続して実施したい。	拡充

3 外部評価結果(市民委員会の評価)

判定理由	方向性
昨年に引き続き、旧町村のイベント補助のうち7件を対象とし、外部評価を行ったが、今後、すべてのイベント補助のヒアリングを実施して評価後に客観的に旧町村のイベント全体を評価することとする。 さらに、財政的に自立できるよう地域活力を活用するとともに、創意工夫する必要がある。	改善継続

4 各委員の評価結果の集計

評価の視点の集計										評価結果の集計						
必要性		有効性		効率性		公平性		内部評価の妥当性			拡充	20%				
高い	40%	有効である	60%	効率的である	40%	公平である	60%	妥当である	40%				現状維持	20%		
低い	20%	有効でない	20%	効率的ではない	40%	公平でない	20%	妥当とはいえない	20%						改善継続	40%
判定困難	40%	判定困難	20%	判定困難	20%	判定困難	20%	判定困難	40%							
【集計結果が示す割合について】 集計結果が示す割合(%)は、評価した5名の評価結果を示しています。 20%⇒1人、40%⇒2人、60%⇒3人、80%⇒4人、100%⇒5人										休止・廃止・終了	0%					

5 各委員の評価コメント

<p>【拡充に関連する意見】 ・事業の運営の為だけの拡充ではなく、用瀬の観光、ブランディング(ブランド化させるための活動)施策として拡充して欲しいと思います。</p> <p>【改善継続に関連する意見】 ・全市的なバックアップ体制の確立が重要。 ・用瀬町民のみでなく、旧市内や県内、県外からの参加者を増やす努力が必要。 ・4月流しびな、5月マラニックと住民の協力を得ての行事だが、もっとシンプルにできないものか。今は鳥取市用瀬だが、その意識があるのかどうか。参加人数の制限もあってもよいと思う。</p> <p>【現状維持に関連する意見】 ・財源の確保に関する努力は一層充実していただきたい。</p> <p>【縮小に関連する意見】 ・賞品を他から調達すれば、市の補助は半減できる。</p>
--

1 対象事務事業名

事務事業名	町民音楽祭開催費(鹿野町地域振興課)
-------	--------------------

2 内部評価結果(担当部署の評価)

判定理由	方向性
様々な年代の市民が運営スタッフとなり、半年以上をかけてミュージカルを製作し上演することは、世代間を超えてのコミュニケーションが図られ、地域の活性化の原点となっており、今後も続けていくことが重要である。	現状維持

3 外部評価結果(市民委員会の評価)

判定理由	方向性
昨年に引き続き、旧町村のイベント補助のうち7件を対象とし、外部評価を行ったが、今後、すべてのイベント補助のヒアリングを実施して評価後に客観的に旧町村のイベント全体を評価することとする。 さらに、財政的に自立できるよう地域活力を活用するとともに、創意工夫する必要がある。	改善継続

4 各委員の評価結果の集計

評価の視点の集計										評価結果の集計		
必要性		有効性		効率性		公平性		内部評価の妥当性				
高い	50%	有効である	25%	効率的である	50%	公平である	25%	妥当である	25%		拡充	0%
低い	25%	有効でない	50%	効率的ではない	25%	公平でない	75%	妥当とはいえない	75%		現状維持	25%
判定困難	25%	判定困難	25%	判定困難	25%	判定困難	0%	判定困難	0%		改善継続	75%
【集計結果が示す割合について】 集計結果が示す割合(%)は、評価した4名の評価結果を示しています。 25%⇒1人、50%⇒2人、75%⇒3人、100%⇒4人										縮小	0%	
										休止・廃止・終了	0%	

5 各委員の評価コメント

<p>【改善継続に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化・芸術の振興は鹿野町のみでなく、全市的な展開が必要。鹿野町が発信源となることに異論はないが、全市民が楽しめる企画となるよう望む。 ・どうしてもミュージカルではないといけないのか。もっと広める工夫、他の協力を求めることも考えられる。鹿野地域では人口が約4,000人、800名弱の参加、見直す機会だと思う。 ・他の財源確保に努力しているイベントもある。そのまま現状維持は難しい。鳥取市における特色ある地域づくりの先進的地域として、市全体に貢献していかなければ一部地域の市民のためだけの補助を続けていくのは難しいと思う。鹿野町だけで完結することなく、その活動の意義を見直してほしい。 <p>【現状維持に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当座このままでよいが、減額を見こして今後の活動を検討していただきたい。
--

1 対象事務事業名

事務事業名	マストリフェスタ補助金
-------	-------------

2 内部評価結果(担当部署の評価)

判定理由	方向性
殿ダム及び殿ダム周辺広場の完成にあわせ、地域の活性化策としてより一層の充実を図る。	拡充

3 外部評価結果(市民委員会の評価)

判定理由	方向性
本事業について今後、地域の持続的発展のためのイベントとするためには、地域の特色を生かしたイベントとして検討をしていく必要がある。さらに、財政的に自立できるよう、イベントの目的を明確にし、地域資源・地域活力の活用や創意工夫する必要がある。	改善継続

4 各委員の評価結果の集計

評価の視点の集計										評価結果の集計		
必要性		有効性		効率性		公平性		内部評価の妥当性				
高い	78%	有効である	33%	効率的である	33%	公平である	33%	妥当である	44%		拡充	11%
低い	11%	有効でない	56%	効率的ではない	44%	公平でない	67%	妥当とはいえない	56%		現状維持	0%
判定困難	11%	判定困難	11%	判定困難	22%	判定困難	0%	判定困難	0%		改善継続	78%
【集計結果が示す割合について】 集計結果が示す割合(%)は、評価した9名の評価結果を示しています。 11%⇒1人、22%⇒2人、33%⇒3人、44%⇒4人、56%⇒5人、67%⇒6人、78%⇒7人、89%⇒8人、100%⇒9人										縮小	11%	
										休止・廃止・終了	0%	

5 各委員の評価コメント

<p>【拡充に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新市域振興ビジョンの方針でもあり、拡充が妥当。 <p>【改善継続に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、過疎化や少子化等に対して、この事業が必要であると思われるので、こうした視点から見直し(駐車場の確保が出来るのか)等、地域の振興に結び付く努力が重要と考える。従来通ではマンネリ化と思われるので、事業に対する地元での再検討を望む。 ・マスの仕入れ先を県内にできないか検討を。 ・実行委員会の主体を市から商工会にシフトし、会場設営費の商工会負担を明確にすること。 ・公平な費用負担の観点から、前売券と当日券の料金の統一を今後検討してもらいたい。また、つかみ取り無料は参加料を払う人との不公平感を感じている。 ・参加者一人あたりの補助金割合が高い。適正かどうか。 ・地域資源の活用、経営的観点での改善が必要。 ・まずは予算の変更を行うのではなく、目的に合った事業の内容に変えていって下さい。改善が実行出来ないのなら予算を削減すべきです。 ・好評だと聞いているので継続してほしいと思うが、改善できることが多々ある。もっと効率的にできると思う。 <p>【縮小に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源の観光資源活用した観光イベントとされているが、地域資源活用策への認識、実態はあまり感じられない。 ・地域行事を否定するものではないが、その観点からは市職員の関与度は高く、予算投入も多い。民間の活用策も検討すべき。 ・10/10で予算範囲内とする補助金交付要綱は見直すべき。
--

1 対象事務事業名

事務事業名	ウォークラリー大会実行委員会補助金
-------	-------------------

2 内部評価結果(担当部署の評価)

判定理由	方向性
新味のある事業展開となるように実行委員会組織を拡充していきたい。また同時期に実施される殿ダムウォーキング大会とそれぞれの特徴を生かした連携を図り、より質の高い内容にするのが適当と考えます。	拡充

3 外部評価結果(市民委員会の評価)

判定理由	方向性
「改善継続」としたものの、ボランティアなどの地域活力の活用を図るとともに、公平で適切な補助金となるよう対象経費等について見直しを図る必要がある。また、総合支所分室単独で行っているが、将来は、支所地域の過疎化の進行を踏まえ各総合支所との連携を強化するなどをし、鳥取市全域のスポーツ振興が図られるよう望むものである。	改善継続

4 各委員の評価結果の集計

評価の視点の集計										評価結果の集計				
必要性		有効性		効率性		公平性		内部評価の妥当性			現状維持			
高い	100%	有効である	78%	効率的である	56%	公平である	33%	妥当である	44%				拡充	11%
低い	0%	有効でない	22%	効率的ではない	44%	公平でない	56%	妥当とはいえない	33%				現状維持	22%
判定困難	0%	判定困難	0%	判定困難	0%	判定困難	11%	判定困難	22%				改善継続	67%
【集計結果が示す割合について】 集計結果が示す割合(%)は、評価した9名の評価結果を示しています。 11%⇒1人、22%⇒2人、33%⇒3人、44%⇒4人、56%⇒5人、67%⇒6人、78%⇒7人、89%⇒8人、100%⇒9人										縮小	0%			
										休止・廃止・終了	0%			

5 各委員の評価コメント

<p>【拡充に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活性化イベントとして妥当。 <p>【現状維持に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金額については、現状維持。内容については拡充していただきたい。 ・引き続き改善を加えながら、良い事業にしていってください。 <p>【改善継続に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合支所分室単独でおこなわれる事業ではなく、教育委員会が全市的に、少子化対策の一環として、青少年のスポーツ振興を考える時期に来ているのではないかと。特に、過疎化が進んでいる各支所の連携が出来るよう、教育委員会の努力を望む。 ・事業費の1/3近くが役員報酬費で占められているのはいかがなものか。地域資源の体感、再発見や親子のふれあいにもつながる本イベントは貴重であるが、殿ダムウォーキング大会との一本化など調整も必要。 ・10/10で予算範囲内とする補助金交付要綱は見直すべき。 ・役員(協力者)のボランティア参加を取入れて継続するかどうか検討すべき。 ・職員費等予算に入れる必要性はないのではと感じる。 ・支出費用の30%も報酬費にかかることはおかしい。今の市の事業は、ほとんどボランティアである。是非内容の見直しを。 ・担当事務局として不公平感を持っていないのか。 ・役員謝礼金の出ているイベントというのは記憶がない。謝礼金は半減しても参加者への商品サービスを向上すべきと考える。
--

1 対象事務事業名

事務事業名	各種団体負担金(むらづくり運動事業費、むらづくり大会補助金)
-------	--------------------------------

2 内部評価結果(担当部署の評価)

判定理由	方向性
住民自らが住みよい地域にするため、「地域コミュニティ計画」に基づき地域のさまざまな課題や問題を解決し、これまで進めてきた地域の特色を活かした地域活性化やまちづくりをさらに前進させることが重要であり、今後も引き続き「まちづくり協議会」の活動を支援していく必要がある。	現状維持

3 外部評価結果(市民委員会の評価)

判定理由	方向性
事業の評価は「拡充」、「現状維持」と「改善継続」、「縮小」がそれぞれ半数を占め、委員の評価が分かれている。「拡充・現状維持」では、住民が主体となって積極的に活動している点を評価している。その一方で、「改善継続・縮小」では市全域での均衡ある発展という観点から、地域間の格差を是正する必要がある、としている。以上の結果から、他地域や他事業との連携を模索し、効果的な事業の実施・改善策を検討されたい。	現状維持

4 各委員の評価結果の集計

評価の視点の集計										評価結果の集計		
必要性		有効性		効率性		公平性		内部評価の妥当性				
高い	80%	有効である	70%	効率的である	40%	公平である	40%	妥当である	40%		拡充	10%
低い	20%	有効でない	30%	効率的ではない	40%	公平でない	30%	妥当とはいえない	50%		現状維持	40%
判定困難	0%	判定困難	0%	判定困難	20%	判定困難	30%	判定困難	10%		改善継続	20%
【集計結果が示す割合について】 集計結果が示す割合(%)は、評価した10名の評価結果を示しています。 10%⇒1人、20%⇒2人、30%⇒3人、40%⇒4人、50%⇒5人、 60%⇒6人、70%⇒7人、80%⇒8人、90%⇒9人、100%⇒10人										縮小	30%	
										休止・廃止・終了	0%	

5 各委員の評価コメント

<p>【拡充に関する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活性化事業として最重要。 <p>【現状維持に関する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町民に向けての事業であり(外部の人に関わりなし)地域の人へ浸透している事業であると思える。 ・「現状維持」としたが、どのようにPDCAサイクル(注)をまわして現在に至っているのかの経緯をお聞きしたかった。 ・地域の活性化に花づくりは良い方法であり、それぞれ集落のコミュニケーションも図れるかと思うが、地域の公民館の位置づけ、協力はどうか。 <p>【改善継続に関する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合支所教育委員会分室単独でおこなわれる事業ではなく、福部総合支所の地域振興課も含めて、事業の効率化を図ることが望ましい。たとえば、青少年育成は教育委員会分室で、また花づくり運動は地域振興課で分担する等です。 ・地域の良い所悪い所や課題を明確にし、課題に対する改善策に予算を使うべきです。現在の活動が悪いとは言いきれませんが、これで良しとなっている感じを受けます。常に課題問題点は抽出して、それに対する事業にしてください。 <p>【縮小に関する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ計画に基づきまちづくり協議会が主体となって各種活動がなされていることは大いに評価できる。ただ、福部町社会教育関係協議会等補助金交付要綱など金額面も含めた他町との公平性に欠ける。 ・均等割10,000円+世帯割500円×世帯数を各集落に配分することは、「福部村」という地域だからできたことで、合併後は、旧市の集落と同様にすべき。著しく公平性を欠いている。「旧市、新市を問わず、市民税や固定資産税は統一基準で課税されている。しかるに、福部町の各集落に、まちづくり協議会を経由して配分金が交付され続けており、税の負担と配分の公平性が損なわれている。花づくり、あいさつ運動、一斉清掃などは、旧市等ではボランティア活動で行われており、福部町各集落にのみ配分金が支給される事由には当たらない。以上のことから、今年度分のこの補助金の廃止、または、集落配分に相当する額の削減を行うべき。また、福部町以外に同様なものがあれば、あわせて是正すべき。 ・伝統と実績のある行事を他地域と同列に論じられない一方、地域コミュニティ計画に基づく地域の活動支援という意味では公平性も求められる。合併前の実績があるというだけの理由で合併後10年経過してもなお同じ事業を続けるというのでは合併の意味の否定にもなる。何れにせよ、全地域のイベント事業をどう考えるかという観点からの見直しの対象とすべきである。
--

(注)

PDCA サイクル・・・Plan(企画・立案)、Do(実施)、Check(点検・評価)、Action(改善)の頭文字だけを揃えたもので、これら4つのステップを一つのプロセスとして捉え、組織を運営していく事で継続的な改善を図ろうとするマネジメントの考え方。

1 対象事務事業名

事務事業名	らっきょう生産振興大会助成事業
-------	-----------------

2 内部評価結果(担当部署の評価)

判定理由	方向性
生産農家やらっきょう情勢が抱えている課題、問題点等の解決策について協議・研修する場としては是非とも必要な事業である。	現状維持

3 外部評価結果(市民委員会の評価)

判定理由	方向性
短期的には妥当な助成であり「現状維持」とした。しかし、「改善継続」という評価も同数程度あり、長期的には現行事業を見直し、若者定住やらっきょう生産への参入など産地維持発展のための戦略を描きながら、より効率的・効果的な事業に対する支援への転換も検討されたい。	現状維持

4 各委員の評価結果の集計

評価の視点の集計										評価結果の集計		
必要性		有効性		効率性		公平性		内部評価の妥当性				
高い	70%	有効である	70%	効率的である	30%	公平である	50%	妥当である	60%		拡充	10%
低い	30%	有効でない	30%	効率的ではない	40%	公平でない	40%	妥当とはいえない	40%		現状維持	40%
判定困難	0%	判定困難	0%	判定困難	30%	判定困難	10%	判定困難	0%		改善継続	30%
【集計結果が示す割合について】 集計結果が示す割合(%)は、評価した10名の評価結果を示しています。 10%⇒1人、20%⇒2人、30%⇒3人、40%⇒4人、50%⇒5人、60%⇒6人、70%⇒7人、80%⇒8人、90%⇒9人、100%⇒10人										休止・廃止・終了	10%	

5 各委員の評価コメント

<p>【拡充に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・らっきょう生産の重要大会。強力に推進すべきである。 <p>【現状維持に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耕作放棄地の解消、生産者の新規就農者、後継者の確保に努めてほしい。 ・日本一のらっきょうを今後も続けてもらうため、あらゆる方向で支援する必要がある。 ・現状維持ではあるが、産地維持発展のための戦略を描いていただきたい。 <p>【改善継続に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短期的には妥当な助成であるが、長期的には若者の定住とらっきょう生産への参入を促進する施策が必要。 ・全らっきょう農家のための大会であるべき。参加実態や関心・意向・要望を把握すべきではないか。 ・さまざまならっきょう製品が店頭に並んでいる。その中で「砂丘らっきょう」のブランドを活かす方法、生産の方法、拡大、販路へもっと目を向けるべきと思う。そんな研修が必要だと思う。 <p>【縮小に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間団体が行う大会への助成としては人件費も含め過大であり、他の分野と比べ公平性に欠けるのではないかとらっきょう生産への支援は否定するものではないが、別方法を検討すべき。 <p>【休止・廃止・終了に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思い切っても問題ないと思います。大会は継続されるでしょうし、らっきょうの振興にはもっと別の予算の使い方があると感じます。
--

1 対象事務事業名

事務事業名	ふるさとの味祭り事業費補助金(佐治町)
-------	---------------------

2 内部評価結果(担当部署の評価)

判定理由	方向性
佐治地域の豊かな自然や特産物、伝統芸能、民芸品等を広くPRし、協働のまちづくりをより一層進めるためにも必要です。計画の参加(来場)者数に対して70~80%程度にとどまっているが、これは、3年続けて雨に降られたため出足が鈍ったことによるものと考えています。	現状維持

3 外部評価結果(市民委員会の評価)

判定理由	方向性
イベントの目的を明確にし、事業内容を改善する必要がある。さらに、財政的に自立できるよう、地域活力の活用や創意工夫する必要がある。また、「縮小」とする意見が3割、改善継続となされた意見にも補助金の見直しを求める意見も複数あり、その取扱いについて検討が求められる。	改善継続

4 各委員の評価結果の集計

評価の視点の集計										評価結果の集計		
必要性		有効性		効率性		公平性		内部評価の妥当性				
高い	70%	有効である	50%	効率的である	30%	公平である	40%	妥当である	50%		拡充	10%
低い	20%	有効でない	40%	効率的ではない	50%	公平でない	40%	妥当とはいえない	50%		現状維持	20%
判定困難	10%	判定困難	10%	判定困難	20%	判定困難	20%	判定困難	0%		改善継続	40%
【集計結果が示す割合について】 集計結果が示す割合(%)は、評価した10名の評価結果を示しています。 10%⇒1人、20%⇒2人、30%⇒3人、40%⇒4人、50%⇒5人、60%⇒6人、70%⇒7人、80%⇒8人、90%⇒9人、100%⇒10人										縮小	30%	
										休止・廃止・終了	0%	

5 各委員の評価コメント

【拡充に関連する意見】 ・地域活性化の重要イベント。継続すべし。
【現状維持に関連する意見】 ・中学校も統合し、地域活性化の上でも必要性を感じる。
【改善継続に関連する意見】 ・人口減少傾向にある地域として、若者の定住化等、長期的視点を取り入れた開催計画が必要に思う。 ・各コーナーに補助金を交付しているが、逆に店舗者から参加料を取って売り上げを全部店舗者がもらう方式に変更したらどうか。 ・地域振興としての趣旨に変更した上で実施していただくのが、適切ではないか。 ・続けてほしいと思うが、補助金の扱いを考えてほしい。有料で販売されているものも安くはない。補助金がなくても利益は出ている。
【縮小に関連する意見】 ・事業運営者の半数は市職員であることに加え事業費の2/3は外部招聘アトラクション、事務局費に充当されるなど「農産物の収穫祭、地域文化の伝承、協働のまちづくり」といった目的からかけ離れたものになっている。まちづくり協議会との連携、公民館祭との統合など身の丈に合った事業とすべき。 ・佐治ふるさと祭り実行委員会補助金は交付要綱同種のものと同統合すべき。 ・祭りの内容も地域の体制もともに「協働事業」とはなっていないのではないかと。当面は、物販も多いことから補助金を減額する方向で工夫すべきである。何れにせよ、全地域のイベント事業をどう考えるかという観点からの見直しの対象とすべきである。 ・事業として良い所は伸ばしつつも予算を縮小すべき。アトラクションは公民館祭りのように費用をかけるべきではない。安く売ることではなく販路を広げていける取組みを盛り込むべき。もしくは販路拡大に予算を使うべきです。

1 対象事務事業名

事務事業名	公民館祭開催費(佐治町)
-------	--------------

2 内部評価結果(担当部署の評価)

判定理由	方向性
佐治地域の住民が文化活動を通じて生きがいを見いだすと共に、地域の活性化を図るために必要です。	現状維持

3 外部評価結果(市民委員会の評価)

判定理由	方向性
評価の視点は肯定的な評価が多く、事業の評価も「拡充」「現状維持」が半数を占めた。その一方で、「改善継続」「休止・廃止・終了」も半数を占めており、今後は、まちづくり協議会を事務局とした事業の実施や他事業・他地域との連携による効果的な事業の実施等、改善策の検討が求められる。	現状維持 改善継続

4 各委員の評価結果の集計

評価の視点の集計										評価結果の集計		
必要性		有効性		効率性		公平性		内部評価の妥当性				
高い	90%	有効である	80%	効率的である	70%	公平である	70%	妥当である	60%		拡充	10%
低い	10%	有効でない	20%	効率的ではない	20%	公平でない	20%	妥当とはいえない	20%		現状維持	40%
判定困難	0%	判定困難	0%	判定困難	10%	判定困難	10%	判定困難	20%		改善継続	40%
【集計結果が示す割合について】 集計結果が示す割合(%)は、評価した10名の評価結果を示しています。 10%⇒1人、20%⇒2人、30%⇒3人、40%⇒4人、50%⇒5人、60%⇒6人、70%⇒7人、80%⇒8人、90%⇒9人、100%⇒10人										縮小	0%	
										休止・廃止・終了	10%	

5 各委員の評価コメント

<p>【拡充に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活性化の重要イベント。継続すべし。 <p>【現状維持に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少ない予算で頑張ったと思います。 ・非常にすばらしい活動だと思います。他の見本にもなるのではないのでしょうか。この感性と経済性をふるさとの味祭りにも活かしてほしいです。 ・とりくみの方法など良いと思うが、旧市内の公民館と同じにできないか。格差を感じる。 <p>【改善継続に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こうした文化活動に対して、各分室で取り扱うのみでなく、合併後10年が経過していることにかんがみ、全市的な視点で戦略を再構築すべきであると思う。また、過疎化対策として同じ悩みを持つ地域の連携が出来るように工夫されたい。 ・市職員が全て執行することは自治会やまちづくり協議会のあり方と逆行するものであり、地域の力を弱体化させる。限界集落という現実の中で他のイベントも含め全体を見直してみる必要がある。 ・鳥取市公民館祭事業補助金交付要綱は同種のものと同様とすべき。 ・開催月の検討を要する。 ・公民館祭と一緒にできないか。検討したらどうか。 <p>【休止・廃止・終了に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助金を公民館に交付しているのが実態。経常的な公民館予算枠で対応できるのでは。事業は継続して補助金をやめる。
--

鳥取市行財政改革推進市民委員会委員

委員長 野田 英明

副委員長 山下 恭史

有田 裕

牛尾 柳一郎

小野 達也

岸本 正枝

谷本 圭志

南部 敏

西村 教子

縫谷 吉彦

浜村 恵子

引田 俊英

オブザーバー 谷 和敏